

TOKYO STARTUP GATEWAY
400字ワークブック
 (実例付き!)



2025年度版



主催



事務局



この度は、『400字ワークブック』を手にとってください、ありがとうございます！

このワークブックには、

「自分の中に感覚としてはあるアイデアを、400字の文章というカタチにするための考え方」

「過去のTOKYO STARTUP GATEWAYへ参加したOBOGの実際の400字」

「個人で出来るアイデア自体の見つけ方」

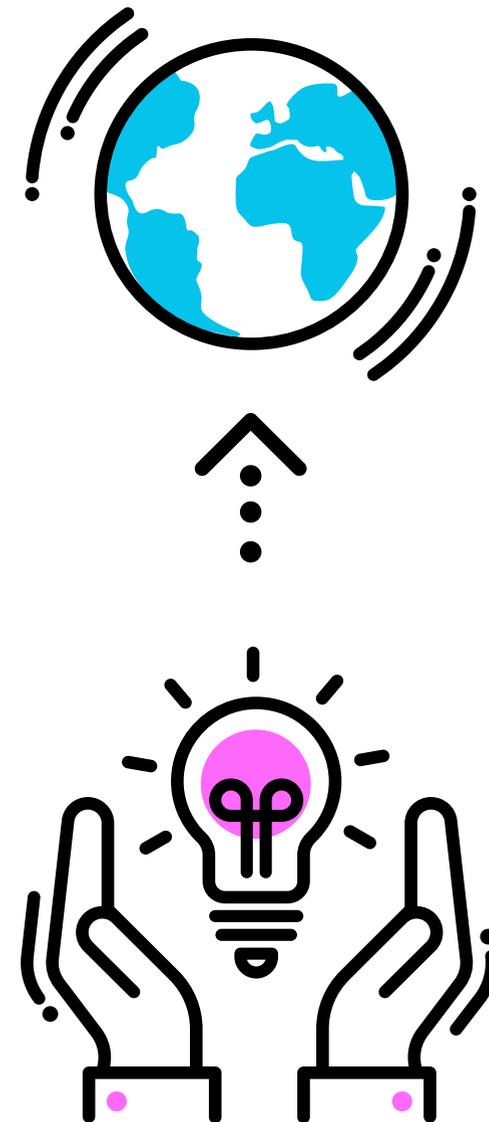
といった内容が掲載されています。

自分の現在の目的や悩みに合わせて、それぞれご活用下さい！

このワークブックが、皆さんの第一歩の手助けとなりましたら幸いです。

[注意]

- ・当ワークブックの内容はTOKYO STARTUP GATEWAYの審査に関わるガイドラインではございません。
したがって、当ワークブックの内容に沿って進めることが一概に審査の通過率を高めることを保証するものではありません。
- ・当ワークブックは想いやアイデアを400字の言葉として形にしていくためのサポートを目的として作成しております。
- ・既に今年度のTOKYO STARTUP GATEWAYへとエントリー済みの方でも、文章を修正した形や別のアイデアによって再度エントリー頂くことは可能です。
※個人の方から複数の応募があった場合、エントリー審査では最新の1件のみを審査対象とさせていただきます。



- P2 はじめに
- P4 400字のつくり方
- P5～P8 アイデアの見つけ方
- P9～P19 OBOGの最初の400字
- P20 その一歩が、世界を変える。

400字に自分のアイデアをどう表現すればよいのか？

いざ書き始めようとする、むずかしく感じる方も中にはいらっしゃるかもしれません。

どうやるのか？実現できるのか？など、いろいろと迷うこともあると思います。

しかし、「はじまり」において本当に必要なことは、

「何をやりたいか」

「なぜやりたいか」

この2つだけです。

さらにいえば、はじめから鮮明に書かれている必要もありません。

むしろ、「荒削りなまま」のほうが、これからたくさんの試行錯誤を重ねて

実際に事業をつくっていくにあたって重要になるときさえあります。

このワークブックには、TOKYO STARTUP GATEWAY(以降TSG)OBOGの

参加当時の400字が載っています。

「何をやりたいか」「なぜやりたいか」に着目して、「はじまりのヒント」も

記載していますので、ぜひ参考にしてみてください。

400
CHARACTERS

次に、400字のタネとなるアイデアのを見つけ方を、
個人で出来るワークとして紹介します。

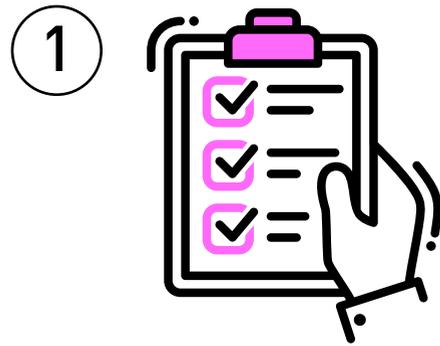
ここで紹介する3つのワークは、特別な準備はいりません。
どれも自分の内側に向き合ったり、生活の中で気づきを意図的に得たり、
あくまで日常の中からアイデアを発見するためのコツのようなものです。

ぜひ、気楽にやってみてください。

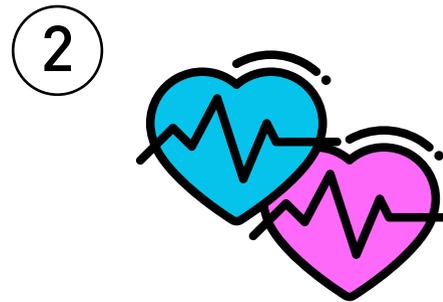


事前準備

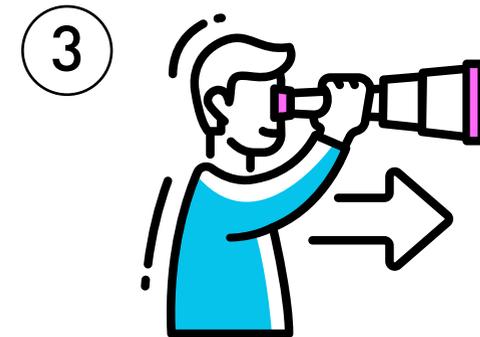
出来るだけ気持ちを落ち着けて、リラックス出来る場所での実施をお勧めします。
携帯電話等は電源をOFFにするか、着信通知が出ない設定にするとより集中して取り組みます。



1 生まれてから現在までの人生年表をつくってみてください。



2 人生年表の中に、感情が強く動いたり、価値観が形成されたりした印象的なエピソードを書き込んでください。
(思いっただけ、書き出して下さい。)



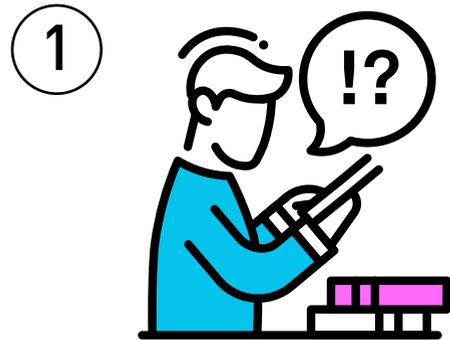
3 出来上がった年表をじっくりと眺めて、「自分自身の人生で、本当に重要な出来事は何か」を振り返ってみてください。その上で、「もし自分の人生を未来をつくることに使うとしたら、どんな未来をつくりたいか？」について想いをめぐらせてみてください。

ワンポイントアドバイス

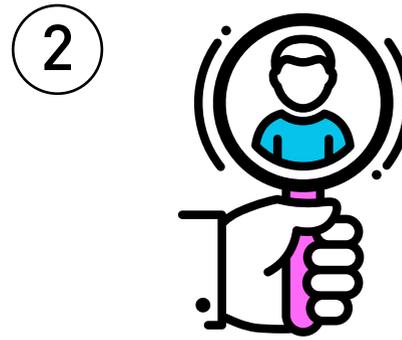
つくりたい未来を発想する最初の段階では、「未来をつくるために必要なリソース(知識や経験、お金、人とのつながり等)を、自分は全て持っている」と仮想してみてください。これによって思考の枠が大きく広がり、大きなビジョンを描けます。また、考えがまとまっていなくてもとにかく紙に書き出す等、アウトプットするのをお勧めします。こうしたワークに慣れないうちは、難しそうだなと感じる方もいらっしゃるかと思いますが、まずは遊び感覚で挑戦してみてください。

事前準備

ふとした日常の中にも、あっと驚くようなアイデアに繋がるようなタネは転がっています。いつもより少し注意深く自分の日常を見つめてみて、課題や違和感を発見してみましょう。



ページ下部のワンポイントアドバイスを参考に、日常のどんな場面から課題や違和感を発見するか、決めて下さい。



課題や違和感を発見する場面の当たりをつけたら、その場面で「誰が、どんな困りごとやニーズを抱えているのか？」を書き出してみてください。複数あっても構いませんし、1つを深掘りしてもOKです。



書き出した困りごとやニーズを眺めた上で、「この困りごとやニーズが解決された、理想の状態」を妄想してみてください。そして、何が起きたらその理想の状態を生み出せるか、付箋やノートに書き出してみてください。

ワンポイントアドバイス

日常の中にも、至るところにニーズが隠されています。例えば、仕事や授業の中、家事や育児、仲間とおしゃべり、インターネットやSNSに流れてくるニュースやつぶやき、映画やドラマのワンシーンに、買い出しの行き帰り。忙しい生活の中では見逃しがちな違和感やニーズ、愛着や心のゆらぎがアイデアの種になるので、些細な気付きもメモしておくのがコツです。

事前準備

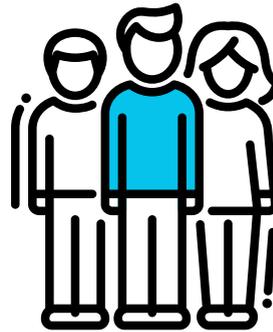
出来るだけ楽しい気持ちになるように、行ってみたい街をピックアップして下さい。
そして、動きやすい服装で、外に出かける準備をして下さい。

①



ペンとノート、カメラ付スマートフォンなど、発見を記録出来るアイテムを持って下さい。

②



そのアイテムを持って街に散歩に出かけ、日常の中のヒラメキ(おもしろい、変えてみたい、違和感があるなど、感情が動く瞬間)を探して記録して下さい。

③



集めてきたヒラメキを持ち帰って、こうすればもっとおもしろくなる、こうしたら困りごとは解決されるなどの視点で、アイデア出しを行って下さい。この際、アイデアの実現可能性は一旦考えずに、発想を広げていくのがとても大切です。

📖 ワンポイントアドバイス

ヒラメキ(感情が動く瞬間)を集めるコツは、難しく考えず、遊び感覚でやってみる、それに尽きます。上手く言葉にならないけどワクワク・モヤモヤする瞬間や、身体や心の反応を「とりあえず拾う」、これが大切です。

📺 ワークの参考動画

『THE GAME CHANGERS' CITY シブヤ』PV
<https://www.youtube.com/watch?v=iMH9wYenNnl>

次のページから、10名のOBOGによる「最初の400字」をご紹介します。
ご自身の400字を書き始める際のヒントとして、ぜひ参考にしてみてください

01 「食のパーソナライズ化」により
日本を予防医療先進国へアップデートする …P10
#20代後半 #会社員 #食・ヘルスケア

02 ママがITリテラシーとスキルを身につけて、
自分と家族を幸せにする学校 …P11
#30代前半 #ママ起業 #子ども・子育て支援

03 自分にモテるショーツ
#20代前半 #大学生 #ダイバーシティ・インクルージョン …P12

04 風力発電にイノベーションを起こし、
エネルギーシフトを実現する。 …P13
#30代後半 #会社員 #先進テクノロジー

05 積極的休養の最大化
「デジタルデトックスツアー」サービス …P14
#20代後半 #会社員 #食・ヘルスケア

06 空飛ぶクルマで「非日常体験」を
デザインし、夢と感動に満ちた世界を作る …P15
#30代前半 #会社員 #先進テクノロジー

07 ヤングケアラーを孤独から救う
革新的コミュニティサイトの設立 …P16
#10代後半 #高校生 #社会問題

08 日本発祥のビジネスモデル「配置薬」で、
医療へのアクセス困難な地域の方々の
健康改善につなげていきます …P17
#30代前半 #個人事業主・フリーランス #医療福祉

09 患者さんの「人生最期の旅行」を叶えたい。
#20代後半 #会社員 #医療福祉 …P18

10 傘はシェアした方が合理的でより自由だ
byアイカサ …P19
#20代前半 #大学生 #ライフスタイル

01

齊藤 悠斗さん(2020セミファイナリスト/株式会社MISOVATION 代表取締役)

#20代後半

#会社員

#食・ヘルスケア

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

誰もが無意識的に健康を維持できる世界を実現したい。近年、人生100年時代を生きる上で大切な「健康」への意識が高まる中、バランスの取れた食生活を継続することのハードルが高いと感じている。痩せたいと思っても「美味しくない、楽しくない、手間がかかる」といった理由でダイエットが続かない。気がつけばラーメンやハンバーガーなど高カロリーなものばかり。帰り道には習慣化しているシメのコンビニアイス。日々の誘惑に負けてしまう。栄養士である私もその1人だった。そこで潜在的な健康意識を持つ20～30代向けに「美味しさ・楽しさ・手軽さ」を感じられる食体験を提供したい。具体的には、日々の食事の写真を撮るだけで摂取した栄養素をデータ化→各個人に合わせて不足した栄養素を補うパーソナライズ冷凍食品を宅配する。食による予防医療を当たり前化し、将来的には生活習慣病患者の減少および医療費の削減、健康的なミドル～シニア層の活躍による日本産業の活性化を目指す。

プロフィール

1994年生まれ。宮崎県出身。東京農業大学応用生物科学部にて分子栄養学や微生物学を学び、うま味の受容体に関する研究に従事。卒業後、カゴメ、リクルートにて勤務。「日本の伝統産業の衰退」と「平均寿命と健康寿命の10年の差」に課題を感じ、日本の食×テクノロジーを通じた健康へのイノベーションを目指してMISOVATIONを創業。日経クロストrend「未来の市場をつくる100社【2024年版】」、Forbes JAPAN「NEXT100」選出。



<https://misovation.com/>

インタビュー

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/152>

💡 本人からのひとこと

長い間モヤモヤしていた1人です。TSGは最も応募ハードルが低く、最もサポートが手厚いビジネスコンテスト。皆様の熱い想いや社会への疑問が世界を変えることを心から応援しています。

02

川端 ふみさん(2019セミファイナリスト/株式会社キマルス代表)

#30代前半

#ママ起業

#子ども・子育て支援

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

子育てをしながらスキルを身につけて、自立し自信を得たいママに向けて、Web制作やプログラミングを学べる「現役ママが作ったママのための」スクールを提供します。企画・運営・メンターも全て現役ママです。現在もプログラミング学習ができるスクールや教材はたくさんありますが、そのほとんどは就職や転職をゴールとした社会人向け。カリキュラムやペースも子育て中のママにはマッチしません。しかし、オンラインで学びやすく柔軟な働き方が可能なITのスキルこそ、ママたちが身につけることで家庭の幸福度、子ども達の教育、日本の社会すら変えられると私は信じています。2020年には小学校でもプログラミング教育が始まり、ママがWebの知識を得ること、プログラミングに関わることは家庭内でも大きな意味を持ちます。忙しいママがモチベーションを保ちながら、育児以外に夢中でのめりこめる「自分のための世界」を持って欲しい。私はそれを「ママのライフスタイルに特化したカリキュラム×コーチング」で実現します。

プロフィール

株式会社キマルス代表取締役。二児の母。会社員から出産を機に退職し、産後はWeb制作フリーランスをしながらWeb系ママのオンラインコミュニティを立ち上げ、ママのためのオンラインスキルスクールを3年間運営。現在は、デザイン制作・SNSの運用・マーケティング 支援などを事業の柱とし、スクール卒業生のママたちとデザイナーやSNSマーケターのパートナーシップを結び、さまざまなサービスを提供しています。



<https://kimallus.com/>

インタビュー

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/48>

💡 本人からのひとこと

自分の想いや課題意識を“言語化”することは、自分自身を見つめ直す大きな機会になります。ぜひ上手に書こうとせず、自分自身の言葉で想いをぶつけてみてください！

03

江連 千佳さん(TSG2020ファイナリスト/株式会社Essay 代表取締役/津田塾大学総合政策学部3年)

#20代前半

#大学生

#ダイバーシティ・インクルージョン

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

なんで女性のショーツはエロくなきゃいけないの？

ショーツの形についての固定概念を覆したい！

私は、女性用トランクスを開発し、女性の局部や鼠蹊部のかゆみ問題を解決します。女性はホルモンの周期上、局部や鼠蹊部にかゆみが発生しやすくなります。例えば、月経中のムレによる痒みや妊娠中の鼠蹊部のかゆみなどが挙げられます。更に、「エロ」を求められる女性のショーツは一般的に鼠蹊部に沿い局部を圧迫する形状であり、デザイン性の高いショーツは生地が化学繊維であることも多く、更にかゆみを悪化させます。かゆみは40%も労働生産性を下げるとい研究結果があるように、女性にとってはQoLを下げる大きな問題です。しかし、解決策はTバック、VIO脱毛、薬の3点しかなく、どれも選択の壁が高くなっています。だからこそ、局部と鼠蹊部に圧迫感のない女性用トランクスは、局部のかゆみを解決する「気軽な手段」という新しい選択肢となるのです。

💡 事務局のひとこと

「当たり前のように思っているけれど、言いにくいこと」が、皆さんの身のまわりにもあるかもしれません。「これって、よく考えたらおかしくない？」「普通だと思ってたけど、もっとよくできるかも。」そんな視点で日常をみわたすと「新しいあたりまえ」がみえてくるかも。

プロフィール

2000年に東京で生まれる。女性のデリケートゾーンの悩みがタブー視されている社会構造を問題視。「次の時代を生きる女性たちへ、私らしくある自由を届ける」をモットーに、エンパワメント・ブランド I _ for ME を立ち上げ、ショーツ機能付き部屋着、「おかえり」ショーツを販売している。同商品はクラウドファンディングで72万円の資金調達に成功。同商品は、ananやマツコ会議をはじめ、メディアで話題に。事業は、Tokyo Startup Gateway 2020でファイナリスト、APT Women 6期生、Makers University6期生に採択され、Global Student Entrepreneur Award 日本3位など評価を受けている。



📍 I _ for ME: <https://i-for.me>

インタビュー

📍 <https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/461>

04

清水 敦史さん(TSG2014ファイナリスト/株式会社チャレナジー 代表取締役CEO)

#30代後半

#会社員

#先進テクノロジー

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

私は2011年までは原発推進派だったが、福島原発事故を目の当たりにして、今後二度と重大事故が起こらぬよう、事故の後始末をきっちり行うと共に、再生可能エネルギー利用の道筋をつくり、次の世代にエネルギーのバトンを渡すことが、私たちの世代の責務であると考えようになった。

再生可能エネルギーの中でも、賦存量や利用可能量が桁違いに大きいのが風力エネルギーであり、既に世界中でプロペラ型風力発電機が運用されているが、安全性や維持コストに加えて、騒音やバードストライクなどの問題が指摘されている。

私は、高効率、安全性、低コストを兼ね揃えた、世界初の「垂直軸型マグナス風力発電機」を2011年に発明し、2013年に特許を取得した。

この風力発電機を実用化し、普及させることにより、再生可能エネルギーの利用比率を高め、エネルギーシフトを実現したい。

プロフィール

1979年生まれ。岡山県出身。2005年に東京大学大学院修士課程を修了後、株式会社キーエンスにてFA機器の研究開発に従事。2011年に東日本大震災をきっかけとして独力で「垂直軸型マグナス風力発電機」を発明。2014年に株式会社チャレナジーを創業。TOKYO STARTUP GATEWAY 2014ファイナリスト。



📄 チャレナジー : <https://challenergy.com>

インタビュー

📄 <https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/225>

💡 事務局のひとこと

「①考えるようになったいきさつ」「②社会における事実や指摘」「③ふまえて、私が見たいこと」の構成でまとまっています。特許の取得も、「調べること」から第一歩がはじまります！

05

田ヶ原 絵理さん(TSG2018ファイナリスト/株式会社CAN EAT代表取締役CEO)

#20代後半

#会社員

#食・ヘルスケア

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

普段人付き合いや仕事に追われるサラリーマンに向けて、まったくデジタルツールから切り離された世界でゆっくり休養をとることができるツアーを提供します。これまで休養のひとつとして自然豊かな場所や異国の地へ旅行に行っても、調べものをしたり写真を撮ったりする必要があってどうしてもデジタルツールから逃れることは難しい現状があります。そんな中、ブルーライトに一切触れず、電気照明も一切つけず、日の光だけで生活することで、デジタルツールへの依存性を遮断し休養の価値を高め、体内時計を安定させることにより生活習慣の改善やマインドfulnessの実現が期待できると考えています。

ツアー客には予め、時計を含めたデジタルツールをすべて預かった上で、「旅キット」なる行動表を渡して旅行を楽しんでもらいます。旅先のフォトスポットには、現地のカメラマンが待機していて自撮りをしなくても素敵な写真を撮ってもらえます。思い出はきちんと残しつつ、休養を集中して楽しんでもらえるサービスです。普段、過度な緊張にさらされている現代人に深い休養を与え、また新しい気持ちで仕事に励んでもらえるような「休み方」を提案したいと考えています。

プロフィール

アレルギー対応食アドバイザー・中級食品診断士。マクドナルドや伊勢丹などの飲食店でのアルバイト経験を経て、大日本印刷株式会社に入社。新規事業企画実行部署で7年間で4つのサービス立ち上げに携わり、OCR家計簿アプリを250万DL規模のアプリに成長させる。母が米アレルギーになったことをきっかけに、「食事制限がある世界31億人の外食を救う」をテーマとしたサービスCAN EATを創業。ホテルやブライダル関係のアレルギー対応講師をつとめる。



📍 CAN EAT: <https://about.caneat.jp>

インタビュー

📍 <https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/80>

💡 本人からのひとこと

自分が本当にやりたかった「食のパーソナライゼーション」のアイデアは会社の中で事業答申中だったので、この400字はサブのアイデアでした。でも最初の400字と全く違っても、事業化するぐらいプログラムの中でアイデアが磨かれていくのがTSGの魅力です。

06

中村 翼さん(TSG2014ファイナリスト/有志団体Dream On共同代表)

#30代前半

#会社員

#先進テクノロジー

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

最初にターゲットとしたいのは、2020年の東京オリンピック観戦を楽しむ親子です。空飛ぶクルマで空中から観戦するサービスを提供することにより、オリンピックをより非日常のものとし、子供達にとって忘れられない鮮烈な体験を残したいと考えています。また、オリンピックを通じて海外にも空ビジネスを訴求し、三次元の移動から生まれる新規サービスを誘発していきます。例えば、南国でのハネムーンレンタカーとして、島から島へと空撮しながら新婚旅行が出来るサービスや、自動運転によるルールなしのジェットコースターで、絶景の中を飛び回るアトラクションなどを想定しています。これらのサービスを通じて、今後さらに広がるバーチャルやネットの世界に生きる次世代の子供達に、自分の身体で実際に体験することの素晴らしさを感じてもらいたいと思います。そして、そこで得た感動や原体験から夢を持ち、「人生に熱中する人」を増やしていくことが私たちの使命です。

プロフィール

'09年、トヨタ自動車に入社し、量産車設計に従事。'12年に業務外で有志団体CARTIVATORを設立し、'14年より「空飛ぶクルマ」の開発を始動。'17年のトヨタグループ15社からの協賛を皮切りに、計100社超のスポンサー企業からの支援を受ける。'18年にはトヨタを退職し、起業家 兼 慶應大・空飛ぶクルマラボ特任助教に。スピンオフした(株)SkyDriveと共に、'20年に日本初の空飛ぶクルマの有人デモフライトを達成。'21年からは有志団体をDream Onと改名し、「未来へのタイムマシンの実現」を目指して、代表を務める。



[Dream On : https://dream-on.or.jp](https://dream-on.or.jp)

インタビュー

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/260>

💡 事務局のひとこと

今でこそよく見聞きするようになった「空飛ぶクルマ」。2014年当時、中村翼さんはラジコンのようにも見える1/5の試作機を持ち歩きいろいろな人や場で夢を語り歩いていました。国産の空飛ぶクルマが上空をいきかう日もすぐそこです！

07

福井 真衣さん(TSG2018セミファイナリスト)

#10代後半

#高校生

#社会問題

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

学生の身でありながら、家族や親類の介護をもこなす『ヤングケアラー』が不満や悩みを共有することができる、介護関係者が集うインターネット上のコミュニティサイトを作る。ヤングケアラーという言葉は、今の日本にはまだあまり知られていない。しかしヤングケアラーの人口は増加しており、自分の時間を犠牲にしながら被介護者のために働く学生も多い。しかし日本において存在の知名度が低いヤングケアラーは、不満や愚痴など聞いてもらいたいことがあっても、彼らの話に理解を得ることはなかなか難しい。誰にも話を聞いてもらえないまま、少なからず精神的なストレスを抱えながら介護を行う。この状況を知った時、同じ学生として何かできることはないだろうか考えた。そこでこの御時勢、周囲に同志を見つけるのが難しいのなら、ネットを介したコミュニティを通じてヤングケアラーも同志を簡単に見つけることができるのではないかと考えた。実際に会うことは難しくとも、そのコミュニティを通じて介護に対する不満や悩みをはじめ、不安や愚痴なども共有し合うことで、まだ学生である彼らの精神的負担を少しでも軽減させてあげることができると期待している。

プロフィール

2001年生まれ、東京都出身。東京学芸大学附属国際中等教育学校5年次在学中、ヤングケアラーを知り、支援に関する研究を開始。数々の有識者へのヒアリングで得た知見や校内における発表会や意見交流を経て考案した事業のブラッシュアップのためTSG2018にエントリー。現在立教大学観光学部在学中。



受賞歴：TOKYO STARTUP GATEWAY2018セミファイナリスト／東京学芸大学附属国際中等教育学校ISSチャレンジ2018成果発表会SGH部門『附属高等学校大泉校舎同窓会賞』受賞／第6回高校生ビジネスプラングランプリ『プラン100』選出／まちだ未来高校生ビジネスアイデアコンテスト2018『最優秀賞』受賞

💡 事務局のひとこと

2018年当時、高校生だった福井さんはヤングケアラーの状況を知ってからいち早く動き始めました。今では様々なメディアで特集されるなど、社会課題として広く認知されはじめています。「まだ知られていないけど、自分や身近な人の困りごと」は、もしかするとみんなも困ってるかも？

08

町井 恵理さん(TSG2014ファイナリスト/NPO法人AfriMedico 代表理事)

#30代前半

#個人事業主・フリーランス

#医療福祉

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

医療へのアクセスが困難な地域に配置薬を配布します。配布先の最終的な目標は、村落の各家族を想定しています。配置薬の中身は使用頻度の高い主要な医薬品(解熱剤・鎮痛剤など)で構成し、村落から選ばれた担当者に管理を任せる。管理担当者は、必要に応じて村落住民に医薬品を渡し、利用者は使用した分だけの費用をお支払いいただきます。担当者による定期的な訪問により配置薬を補充、使用した分だけの医薬品の代金を徴収します。その結果、医療機関を受診することができない、もしくは薬が手元にないがために我慢していた症状が緩和され、日々を健康に暮らしていただけるようになると考えています。特に、体力のない小さいお子さんは、体調を壊した場合に早期の対処がなされないがために死に至るケースが数多くあります。このようなケースでも命を救うことができるようになると考えています。

プロフィール

薬剤師。青年海外協力隊としてアフリカのニジェール共和国で、2年間感染症対策のボランティア活動に従事。現地での経験から、アフリカの医療環境を持続的な仕組みで改善したいと考え、グロービス経営大学院大学へ進学。「違いがあるからこそ共に学ぶものがある。アフリカと日本の両方を良くしたい」という思いから、AfriMedico設立に至る。



受賞歴：2014年 TOKYO STARTUP GATEWAY 最優秀賞／2015年 ICNet 社主催「40億人のためのビジネスアイデアコンテスト」でファイナリスト／2016年 人間力大賞受賞／2017年 Forbes JAPAN 「世界で戦う日本の女性55人」選出／2018年 日経ソーシャルビジネスコンテスト 海外支援賞／2019年 日経ビジネス「世界を動かす日本人 50」選出など

[AfriMedico:https://afrimedico.org](https://afrimedico.org)

インタビュー

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/141>

💡 事務局のひとこと

ご自身の専門性や経験を活かし、現場の様子と事業案を具体的にありありと描かれています。ひとりひとりの専門性や経験が、新しい事業やイノベーションにきっと繋がります。

■患者さんの「人生最期の旅行」を叶えたい。

09

伊藤 玲哉さん(2019ファイナリスト 最優秀賞/トラベルドクター株式会社代表取締役/医師)

#20代後半

#会社員

#医療福祉

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分 — 「なぜやりたいのか」の部分

病気で旅行を諦めている人の「人生最期の旅行」を叶えます。「もし、あと100日しか生きられないとしたら、あなたは最期にどこへ行きますか?」私は医師として、これまでに多くの患者さんのお看取りを経験しました。最期に残された大切な時間を「自分らしく」過ごすために、医療者として寄り添い続けることが使命です。残された時間をどう過ごすかは、一人ひとりに特別な思いがあります。その選択肢の1つとして「人生最後の旅行へ行きたい」と考えている患者さんがとても多いことを医療現場で実感しました。しかしながら、医療面・時間面・心理面・システム面に多くの壁があることや、支援できる環境が整っていないために、実際に旅行へ行ける人は非常に限られています。そこで「医療×旅行」の知識を持った医療者がサポートする「人生最期の願いを叶える、医師がつくる旅行会社」の設立を目指します。そして病気を抱えている全ての人々が「安心・安全」に旅行ができる社会を実現します。

プロフィール

これまで医師として、多くの方の“最期の瞬間”に立ち会うことを経験。ある終末期患者さんの「旅行へ行きたい」という言葉をきっかけに、「医療×旅行=旅行医」を志す。1人でも多くの願いを叶えるため、病気を抱えていても旅行ができる「医師のつくる旅行サポート会社」の設立を決意。病気で旅行を諦めていたすべての人が安心して安全に旅行ができる環境づくりを。旅行を処方できる医療を目指し、「旅行へ行きたい」を通じて「今を生きたい」人を応援している。



<https://travel-doctor.jp/>

インタビュー

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/230>

💡 本人からのひとこと

どれだけ大きな夢だとしても、まずは言葉にすることが最初の出発地点です。ぜひ恐れずに、叶えたい願いを400文字に綴っていただければと思います。きっと、その夢を応援してくれる人が見つかると思っています。

10

丸川 照司さん(TSG2018 メンバー /株式会社Nature Innovation Group (アイカサ) 代表取締役)

#20代前半

#大学生

#ライフスタイル

最初の400字

参考

— 「何をやりたいのか」の部分

— 「なぜやりたいのか」の部分

傘を買うの悔しいと感じたことはありませんか？ 家には5,6本あるのに、欲しいときに無い。それで仕方なく500円でビニ傘を購入。それによって年間8000万本もビニ傘が買われています。同じ数だけゴミになっているということになります。私はとても変だと感じるのです。私たちは傘というモノではなく“濡れない体験”を買っています。

なのに要らなくなるモノを買い

結果的にゴミになり税金が使われ処分される

なおかつ環境に悪く持続性がない。

さらに言うと勝った人もハッピーではない。矛盾とギャップがここに沢山あるので。500円払い傘を買うよりももっと安く濡れない体験を味わえた方がはるかに良いのです。ですが現在そんなシステムが日本には残念ながらありません。だから、私たちアイカサはITを使い安く傘を好きな時にどこでも借りれて返せるインフラを作るために現在挑戦して行きます。傘を借りることが当たり前選択肢になりより気持ちいい社会になることを早く見たいです。

プロフィール

台湾と日本のハーフで4割ほどシンガポールなど東南アジアで育ち中国語と英語を話せる。18歳の時にソーシャルビジネスに興味を持ち、社会の為になるビジネスをしたいと志す。19歳の時に子ども目線の反抗期カウンセラー、20歳に株式会社ノジマでセールストップ10、その後マレーシアの大学へ留学。在学中に中国のシェア経済に魅了され、私自身が最も欲していた傘のシェアリングサービスを大学を中退して始める。現アイカサ代表、夢は財団を作ること。



📍 アイカサ: <https://www.i-kasa.com>

インタビュー

📍 <https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/interview/185>

💡 事務局のひとこと

「なぜやりたいのか」という思いを前面に描かれていますね。丸川さんのこの思いが現在の事業の根幹になっているのではないのでしょうか。Howの部分もちろん大事ではありますが、まずはなぜやりたいかだけを追求するだけでも構いません。

■その一歩が、世界を変える。

皆さんが書いた400字のアイデアは、世界がよりよく変わる第一歩です。
こんな400字でいいのかな?と思ったとしたら、
すでに真剣にアイデアに向き合っている証ではないでしょうか。
そして、あなたの一歩目を、TOKYO STARTUP GATEWAYは心から応援します。

東京発・世界を変えるスタートアップコンテスト「TOKYO STARTUP GATEWAY」は
2025年7月6日(日)23:59まで、エントリー募集中です。

どんな険しい道のりも、どんなにスゴイ未来も、「はじめの一歩」から全てがはじまります。

あなたが描く「400字のビジネスアイデア」を、ぜひありのまま、
おもいきりぶつけてください。

⇒ TSG2025のエントリーはこちらから

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/2025/entry>



●東京発・世界を変えるスタートアップコンテスト

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/>



●TSG出身者の起業ストーリーや400字アイデア

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/stories/>



●TSGの起業コミュニティ

<https://tsg.metro.tokyo.lg.jp/community/>

